

事業の背景・目的

旧品井沼周辺ため池群：絶滅危惧種シナイモツゴ①とゼニタナゴ②が生息。大崎市天然記念物、重要湿地500指定。



1995年からブラックバスがため池で急増。2002年から池干し③でバス駆除。シナイモツゴの生息池を増やし、小川ではウナギも出現した④。



ブラックバス減少に伴いアメリカザリガニが増加。二枚貝が減少⑤、ゼニタナゴが激減、絶滅必至の状態に陥った。

アメリカザリガニ成体を簡単に大量捕獲する連続捕獲装置⑥と小型幼体を捕獲し水生昆虫の住場となる人工水草⑦を開発。



オオクチバスとアメリカザリガニを同時に長期継続して防除する住民主体の体制構築をめざす。

事業の内容

ア 外来種防除事業

- ①オオクチバスの防除
 - ・バス侵入監視パトロール①
 - ・ため池と川でバス生息調査
- ②アメリカザリガニの防除
 - ・大～中規模ため池(0.1～3.5ha)で簡易な捕獲ツール②を使い住民が大量捕獲③。



イ 生息環境復元・効果検証事業

- ①環境復元活動
 - ・人工水草設置④、水生昆虫の復元状況をモニタリングした。
- ②ため池と川のモニタリング：地元小学生による生き物調査⑤で復元効果を検証。



ウ 保全体制強化事業

- ①後継者育成学習会など開催。
 - ・高校生50名がため池勉強会参加⑥。
 - ・中学生23名が生き物観察会参加⑦。
- ②全国シンポジウム開催
 - ・水辺の自然再生シンポWEB開催⑧。
- ③ミニシンポ・地域研修会開催
 - アメリカザリガニ防除の成果を詳細に報告した⑨。(シナイモツゴ郷の会URLで講演動画を配信中)

得られた成果

- ①7～11月に大規模ため池と中規模ため池に連続捕獲装置を設置し、週1回捕獲。両池で住民による捕獲を長期継続できた。
- ②中規模ため池で標識放流・再捕調査を実施した①結果、放流1週間後における大型個体の再捕率は2年連続50%前後となり、連続捕獲装置の捕獲効率が高かった。
- ③大規模ため池では全域捕獲2年目に低密度化した②。同時に小型個体の割合が増加した。



- ④低密度管理を長期間維持した池③では二枚貝④とゼニタナゴ⑤が増加、人工水草の中ではトンボ類ヤゴが増加した⑥。
- ⑤小中高生による小川のモニタリング結果は、環境DNA調査結果とよく一致し、高い精度であることがわかった。ブラックバス一掃後、多くの魚類が復元したことを再確認した。